

(広報資料)

令和2年8月5日  
地方独立行政法人京都市立病院機構  
(担当 京都市立病院事務局 311-5311)  
(担当 京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課)  
電話 746-2866

## 令和元年度地方独立行政法人京都市立病院機構の決算概要について

京都市立病院（以下「市立病院」という。）及び京都市立京北病院（以下「京北病院」という。）は自治体病院として、感染症医療、救急医療やへき地医療などの政策医療をはじめ、市民の生命と健康を守るために、医療の質及び患者サービスの向上に取り組んでいます。

第3期中期計画期間の初年度に当たる令和元年度は、これまでに整備した医療機能を活用し、ロボット支援手術をはじめとする高度な手術等により、入院や外来の診療報酬単価が上昇したことなどから、法人全体では過去最高となる医業・介護収益を達成しました。

一方、支出においては、高額医薬品の購入や診療体制整備に伴う給与費、経費の増加などにより、法人全体の経常損益は、前年度と比べて4億99百万円悪化し、前期に引き続き5億14百万円の赤字となりました。

第3期中期計画の2年目である令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症流行に伴い患者数が激減しており、大幅な減収が避けられない厳しい状況下にあります。引き続き経営改善の取組を進めてまいります。

### 1 市立病院

収入については、手術件数やがんに係る化学療法件数の増加などによる診療単価の増額により、売上に当たる医業収益は、市立病院開設以来最高となる178億99百万円となりました。

一方、運営費負担金について、借入金返済が減少したことで、前年度と比べて1億28百万円減少（30年度16億81百万円⇒元年度15億53百万円）したこと、また、支出において、抗がん剤等の高額な医薬品の購入や診療体制強化に伴う人件費等が増加したことなどから、経常損益については4億51百万円の赤字となり、前年度から4億59百万円悪化しました。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響で、入院、外来患者数が激減し、大幅な減収となり経営を圧迫しておりますが、医療の質や患者サービスの向上、更に高度で専門的な医療を提供するなど中期計画の取組を着実に推し進め、一層の収益向上を図るとともに、支出の削減に努めます。

## 2 市立京北病院

収入については、入院、外来患者数の減少に加え、介護老人保健施設の利用者数も減少したことなどにより、医業・介護収益は、前年度から30百万円減少し6億85百万円となりました。

また、支出については、人件費の増加等のため、経常損益については前年度から39百万円減少し、62百万円の赤字となりました。

令和2年度においては、地域包括ケアシステムの拠点施設として、地域に根差した医療・介護を提供し、在宅医療の強化や入院患者の確保等により収益向上を図るとともに、支出の削減など効率的な運営に努め、赤字額の圧縮を目指します。